

第552回 長野放送番組審議会

1. 開催年月日 令和6年9月4日（水）午前11：00より
2. 開催場所 長野放送本社会議室
3. 委員の出席 ○委員総数 8名
○出席委員数 7名
○出席委員の氏名（敬称略・委員は五十音順）
委員長 林 新一郎
副委員長 井上 裕子
委員 浅井 隆彦
委員 笹本 正治
委員 武重 正史
委員 中山 潔
委員 南澤 光弥
○欠席委員の氏名（敬称略・委員は五十音順）
委員 加藤 恵美子
○放送事業者側出席者名
外山 衆司 （代表取締役社長）
船木 正也 （常務取締役 編成業務・放送番組審議会担当）
西條 彰浩 （取締役 報道制作局長）
早川 英治 （編成業務局長）
浅輪 清 （編成業務局次長 兼 考査部長
兼 放送番組審議会事務局長）
北澤 輝久 （編成業務局編成部長 兼 視聴者室長）
伊藤 晴彦 （報道制作局次長）
飛田 修一 （報道制作局制作部）

4. 議題

（1）番組審議

『 NBSフォーカス∞信州 長野西山 初夏のおごっつお 』

令和6年7月5日 金曜日 午後7時00分から放送

(2) 視聴者対応報告（令和6年7月、8月分）

(3) その他

5. 議事概要

(1) 番組審議

- ・長野市西部の中山間地域、西山という場所に絞り込んで、その天然の自然の食材の収穫や料理。またそこに生活する人々の様子を記録した番組として非常に素晴らしかった。
- ・長野の方言で「おごっつお」という言葉は幼い頃から慣れ親しんだ単語だったので、どんな美味しいものが出てくるのかということに想像を掻き立てられた。
- ・放映された時間帯が一家団らんで食事をしながら見るという時間だったので、今回のテーマと相性が良く昔の話に盛り上がり、更に番組を盛り上げたのではないかと。
- ・西山の淡竹保存会の活動や、食文化を守っていこうというしっかりとした取り組みがはっきり分かった。
- ・加工食品や加工法をふんだんに紹介したということで、食文化の紹介として非常に意義は大きい。
- ・お惣菜系の商材等に関して両親だとか祖父母から歴代受け継いできたとか、味を守り続けているといったコメントが多くて、そういう意識を持って大事に育てている、伝承しているということがよく伝わった。
- ・商品開発をやっている高山さんのコメントで、「農家の笑顔、風景を想像しながら商品開発をしている」という言葉が、まさに地域を支える実感のこもった言葉だと思って、深く胸に残った。
- ・信州新町の道の駅がこれだけ賑やかで、売り上げを上げて地場製品の振興にも力を入れているというのは初めて知ったので、ニュースの価値は高かった。

- ・小梅と淡竹というのは埋もれがちだが、独自の加工とか、食べていただくための工夫とかが知れて良かった。
- ・フレッシュトップ田中屋さんの取り組みは、本当に地域に必要なお店とはなんだろうというものを改めて考えさせられた。
- ・各地で道の駅が大きくなり、地元の人たちによって支持されている。信州新町に関わらず、道の駅の社会的な役割についてもう一回確認したというのが今回の番組だった。
- ・食材のアップ、風景の引いた映像をうまく表現して、映像のきれいさ、リアルさが食文化を際立たせる大きな助けになっていた。
- ・梅の畑でボトルと注がれたグラスワインのワインの所に奥の梅の木がぐっと映し込まれた映像が心に残った。
- ・食文化を語るには食べ物だけを取り上げるのではなくて、地域の人やその人の生活、それから歴史が重要で、今回の番組はそういったところも表現されて良い番組だという印象を受けた。
- ・関わっている方、作る側、売る側、買う側の皆さんもみんな楽しそうに、嬉しそうに話したり作業したりしているというのが印象的で、西山の食文化をある意味表しているという気がした。
- ・全体に思わぬ言葉、思わぬ映像、発言、そういったものがうまく編集されていて非常に良かった。
- ・最初の「豊かな自然、伝統的な食文化で知られ、おごっつおがたくさんあることで知られる西山地方」という表現が歴史的な文化を持っているということをお願いしたいのか、種類があるということをお願いしたいのか疑問を感じた。
- ・西山大豆という豆もここら辺の特産だと聞いた覚えがあったので、味噌とか豆腐とか、そういう文化の紹介の仕方はなかったのかなと感じた。

- ・小川村の紹介が一切なかったのは、題材がなかったのか、意図があったのかという所がちょっと気になった。
- ・ここは粉物文化なので、なぜ粉物なのかということをもう少し紹介してもいいと思った。
- ・背景の食文化とか、人口減、高齢化、合併したゆえに地域の個性を出しにくい難しさみたいなことをやっていただけると良かった。
- ・今回これを機に課題を投げ掛けているということだとか、もう少し深掘りをさせるとか、考えさせるとか、次の行動に繋がるとか、そんなような視点でテレビの役割は大きい。
- ・人なら人と、焦点を少しギュッと圧縮して番組にしてもらうのもこれから期待したい。
- ・「長野県農村生活マイスター」とご紹介されていたが、キャプションでもいいので解説があったらありがたかった。
- ・道の駅の歴史と未来をもう少し詳しく紹介しても良かった。
- ・どうしても北信が多くなってしまうので木曾や南信などでもこういった問題を取り上げてほしい。
- ・県民が慣れ親しんだ食材は、実は県外の人にとっては大きな価値があるということを是非認識して、ローカルでやるだけではなくて、県外の人にアピールできるような番組になったらいいのではないか。

(2) 視聴者対応報告（令和6年7月、8月分）

資料に基づき、令和6年7月、8月分の視聴者対応について、編成部より報告を行った。

(3) その他

配布資料

- ・第551回番組審議会（令和6年7月）議事録
- ・視聴者対応報告資料（令和6年7月、8月分）
- ・開催日変更資料
- ・モニターレポート

『 NBSフォーカス∞信州 長野西山 初夏のおごっつお 』

（令和6年7月5日（金）午後7時00分～放送分）

- ・BPO報告（NO. 266、267）
- ・民間放送（第2229、2230号）

以 上